

《NEWS》

■第 12 回遺跡発表会を開催しました

7月19日(土)に佐倉市中央公民館で開催した遺跡発表会は、暑い中300名を超える来場者がありました。今回は佐倉市文化財審議会副委員長 外山信司先生を講師に迎え、「近世佐倉城と城下町 ―『古今佐倉真佐子』を中心に―」という題名で基調報告をしていただきました。

なお、当日来場できなかった方も11月28日(金)まで文化財センター考古資料展示室において出土品を展示しておりますので是非ご覧ください。



外山信司先生による基調報告

■駒形北遺跡（第3地点）体験発掘を開催

8月7日(木)に印西市、8月11日(月)に印旛村の子供達を対象に、印西市の駒形北遺跡において体験発掘を行いました。両日とも暑い日でしたが、古墳時代後期から奈良・平安時代の竪穴住居跡を実際に掘る作業におこない、土器が見つかったと歓声があがっていました。



体験発掘の様子

《速報》

■成田市久井崎Ⅱ遺跡出土「台形土器」

久井崎Ⅱ遺跡は、旧大栄町に所在する縄文時代中期を主体とする集落跡で、住居跡7軒、炉跡12基、土坑136基を検出しました。写真の遺物は加曾利E式期の土坑から出土した台形土器です。

台形土器は、器台状の形をしており、側面には透かし穴があげられています。

また、台の部分は良く磨かれていて平滑に仕上げてあります。使用法は土器を製作するための台であるとか、太鼓のように使われた有孔罎付土器を置いた台ではないかと推測されています。久井崎Ⅱ遺跡では破片ですが、その有孔罎付土器も出土しています。様々な説がある台形土器ですが、印旛郡内では珍しい資料です。



出土した台形土器

《発掘中の遺跡》

11月以降の予定

〈成田市〉 船形手黒遺跡（古墳～奈良・平安時代）
キサキ遺跡4地点（旧石器時代、古墳時代）

〈印西市〉 道作古墳群（旧石器時代、古墳時代）
馬場遺跡第5地点（縄文時代～近世）

《室内作業》

〈本部統合事務所〉

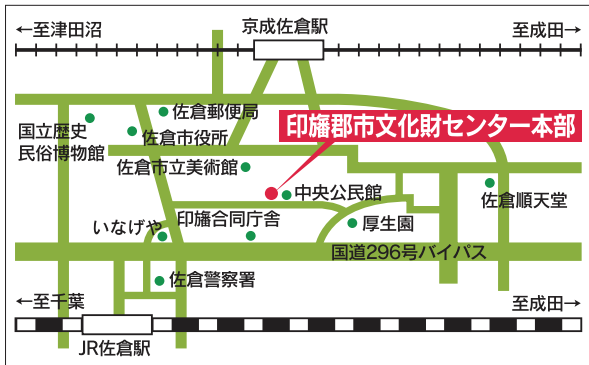
佐倉市鍋木町198-3 TEL. 043-484-0133
東町松原古墳（成田市 縄文時代～近世）
佐倉城跡（佐倉市 近世）
馬場遺跡第5地点（印西市 縄文時代～近世）
鎌苅遺跡（印旛村 弥生～古墳時代）

〈宮小路事務所〉

佐倉市宮小路町27-1 TEL. 043-483-0522
宮内井戸作遺跡（佐倉市 縄文時代～中世）

《おしらせ》

※上記の発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡ください。詳細は本部へお問い合わせを！



平成20年11月7日

〒043-484-0126(代) 043(485)9871
http://www.inba.or.jp (eメール) http://www.inba.or.jp/i/

千葉県佐倉市鍋木町198-3

〒285-0025 千葉県佐倉市文化財センター
発行・編集 財団法人 印旛郡市文化財センター

■広報誌 フィールドブックvol.27



なり た し の げ だいら かみ の うち い せき

成田市野毛平上之内遺跡



古墳全景（写真上が南）



横穴式石室（南から）



石室周辺で出土した須恵器

成田市野毛平上之内遺跡は、成田市の中心部からおよそ4km北東の野毛平工業団地の近くに所在します。今回の調査は新設道路の建設に先立って行われ、縄文時代後期、古墳時代前期、奈良・平安時代の竪穴住居跡などがみつかりました。

写真は調査区のほぼ中央部でみつかった古墳で、墳丘（盛土）は残念ながらすでに削られて残っていませんでしたが、古墳の周りを巡る溝（周溝）と主体部と呼ばれる埋葬施設を調査しました。古墳の規模は周溝の外側で一辺約14mを測り、幅1.5m、深さ60cmほどの周溝が四角く巡る方墳です。主体部は古墳の中央やや南寄りに設けられ、周溝から連続する羨道と呼ばれる入口をもち、白い軟質砂岩の切石を積み上げた石室（玄室）で構成される横穴式石室でした。石室の蓋になる天井石はすでに大半が削られてなくなっており、主体部の中も後世の盗掘によってほとんど副葬品が残っていませんでした。右側の写真は石室周辺で出土した、注ぎ口のついた須恵器の甕と思われるもので、東海地方でつくられた7世紀終わり頃の製品です。ほかにも東海地方産の須恵器の破片が多く出土しています。

成田市東部周辺の地域では、周溝から連続する半地下式の横穴式石室をもつ比較的小規模な方墳の造営が、古墳時代の終わり頃に流行します。この古墳も古墳時代的な社会の秩序から、新しい「律令」を基本とする古代的な秩序へと再編されてゆく時期の地域のリーダーたちのお墓です。

さくらし
佐倉市

まのだい ふるやしき いせき
間野台・古屋敷遺跡C地区

間野台・古屋敷遺跡は印旛沼の南岸、標高 27 m ほどの台地上に立地している遺跡です。過去、昭和 50 年に白井中学校建設に伴って発掘調査が行われ、弥生時代から奈良・平安時代にかけての集落跡、中世のお墓等が見つっています。特に中世のお墓の中から、供養のためにつくられた多くの板碑^{いたび}が見つかり、その中には、「弘安七年(1284)十一月八日」や「嘉歴三年(1328)」などと紀年名が確認されているものもあります。

今回は、過去の調査区の南側、白井中学校の敷地に隣接した部分を対象に調査を行ないました。調査の結果、古墳時代から奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡などとともに、土器を作るための粘土を採っていた採掘坑や、中世の建物跡などの遺構が見つかりました。

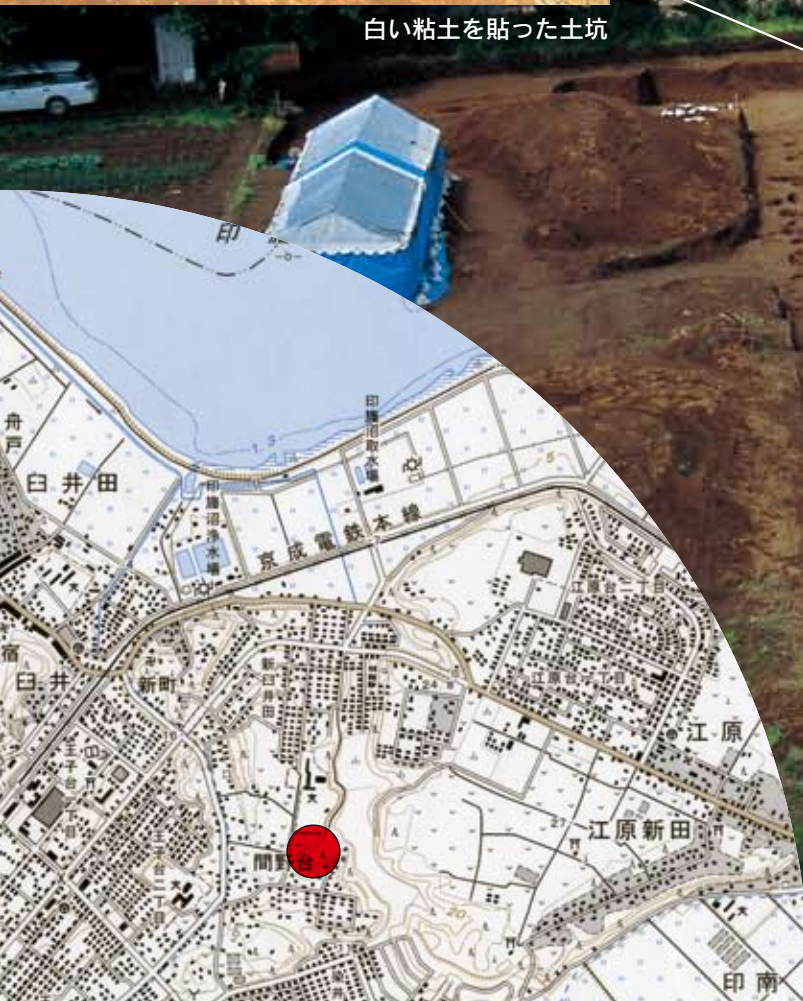
粘土採掘坑は、調査区の南東側を中心に、台地の縁に沿うように広がっていました。常総粘土層から粘土を採るために何度も円く掘られた跡が連なり、まるでブドウの房のようになっています。生活していた場所ではないため、土器などの遺物が非常に少なく、時期を特定することは難しいのですが、採掘が行われなくなった後、奈良時代の竪穴住居跡がつくられているので、少なくともそれ以前のものであろうと考えられます。

そして中世の建物跡は、調査区の西側にある 2 ヲ所の台地整形と呼ばれる、斜面を削りだしてつくられた平坦部分を中心にありました。当時の建物は残っていませんが、柱を立てるために規則正しくあけられた穴が無数に見つかり、数棟の建物が建っていたことがうかがえます。また、建物跡のそばには、井戸や貯水に使われたとされる白い粘土を貼った土坑や、お墓や貯蔵施設だったと考えられている地下式坑など中世に特徴的な遺構が見つっています。遺物は 15 世紀頃の陶磁器片が見つっており、建物が使われていたのが、その時期ではないかと考えられます。

本遺跡の北側、印旛沼のほとりには、白井氏、原氏の居城として栄えた白井城跡、南側には同じく白井氏に関係する屋敷跡と考えられる白井屋敷跡遺跡など、中世の遺跡が見つっています。今回の調査は、かつて「フルヤシキ」と呼ばれていたこの地にも、中世の屋敷が存在していたことを裏付けることになりました。



白い粘土を貼った土坑



遺跡位置図 (S=1/25,000)

台地整形

粘土採掘坑



粘土採掘坑が埋まっている様子



粘土採掘坑の掘りあがった様子

空から見た間野台・古屋敷遺跡 (奥に見えるのが印旛沼)